

## 第168回国際高官セミナーに参加して

警察庁 植草 太郎

### 1 はじめに

私は、平成30年1月11日から2月9日までの間、標記セミナーの国内研修生として、国連アジア極東犯罪防止研修所に入所いたしました。本研修の主要課題は、「犯罪予防及び刑事司法分野における法の支配の促進：国連の諸条約・準則に基づく政策と運用」であり、その目的は、研修参加者が当課題を検討することにより、諸国における犯罪の防止及び刑事司法の充実等に寄与するとともに、関係諸国の相互理解の促進を図ることとされております。研修参加者は、我が国を含む各国の裁判官、検察官、警察官、矯正関係職員及び保護関係職員からなる合計28名（海外参加者21名、国内参加者7名）でした。

本研修は、国籍や職種等のバックグラウンドが異なる研修生が、約1か月間にわたり寝食をともにしながら主要課題について検討するとともに、公私にわたって親交を深めるといった、国内において他に類を見ないユニークな研修です。

この度、本研修に参加した研修生として、主な研修内容のご紹介及び感想について述べたいと思います。

### 2 研修内容について

#### (1) 主要課題に対する個人発表

各研修生が主要課題に関連したテーマを選定し、自国の司法制度、自所属における取組、課題及び解決策について、パワーポイントを用いながら発表するものです。各国の司法制度等を知ることにより、我が国における司法制度等について客観的に認識することができたほか、海外諸国のグッドプラクティスの中には、我が国も学ぶべき点も多かったです。また、質疑応答も活発に行われ、各研修生の問題意識の高さに感服するとともに、私もその姿勢に触発されて積極的に質疑に参加することができました。英語での発表であったため多少緊張はしましたが、国際会議場を模した会場での発表は貴重な経験となりました。

## (2) グループワーク

主要課題に応じてテーマ別にグループ分けされた研修生が、グループ内にて複数回にわたり検討を重ね、最終的にテーマに対する実務的な解決方策をレポートにまとめて全体発表をするものです。研修生相互の人間関係が十分に醸成されたセミナー後半に実施されたことから、各自の豊富な知識や経験を基に忌憚のない意見交換がなされました。ゼロベースから議論を立ち上げ、各研修生が協力しながら最終的に成果物としてまとめることができました。平日では時間が足りず、夜間や土日にもメールで内容を協議するなど、当日の発表直前まで議論を重ねました。全体発表の直前に発表者の一員に指名されましたが、グループ参加者の支援や心温かい応援のお蔭で大過なく終えることができました。

なお、行程の進捗度合を常に意識しながら全体のバランスや内容の整合性を重視する日本式の仕事の進め方とは異なり、本質を徹底的に議論した上で成果物の策定に取り掛かるといった海外参加者達の手法に当初は文化の違いを感じましたが、自らの視野を広げる点において非常に良い経験となりました。いずれにせよ、本研修の中で最も印象に残るイベントの一つでした。

## (3) 講義

著名な大学教授や実務家を中心とする客員専門家、国内講師及び研修所教官による主要課題に関連した講義を受講しました。講義の中で、法の支配が機能していない某国の自治体が、幾多の犠牲を払いながら法の支配を獲得するまでの過程を紹介いただきました。この過程に触れて、法の支配の欠如の深刻さを実感するとともに、法の支配の実効性はあらゆる段階における法教育の充実にあるとの認識に至りました。いずれの研修生も当面の日常業務に追われ、法の支配とは何か、万人に開かれた司法アクセスとは何かという本質を立ち止まって振り返る機会は少なからうと思います。このような中、講義の受講を通じて、自分が従事してきた業務が法の支配の枠内にあることを再認識したほか、今後は法の支配の如何なる分野に影響を及ぼし得るのかを念頭に業務に当たっていきたいと感じました。

## (4) 見学，訪問等

法務副大臣への表敬や最高裁判所を始めとする東京地裁，広島少年院，更生保護施設等の刑事司法関係機関等の各施設を見学したほか，保護司宅を訪問しました。いずれも貴重な経験でしたが，特に保護司宅訪問においては，保護司の方々の献身的な姿勢と温かい人柄に海外参加者が感銘を受けていた点が印象的でした。

#### (5) 課外活動

鎌倉散策，ランチパーティ，チーム対抗の卓球大会，日本語教室など様々な課外活動が用意されており，行事を重ねるたびに参加者同士の融和が深まり，次第に一体感が増していきました。いずれも一言では語りつくせぬほど思い出深いものでした。

鎌倉散策では，寺社仏閣を巡ることが多く，海外参加者からは日本の伝統文化に関して質問攻めに遭ったのですが，答えに窮することもあり，改めて我が国の伝統文化について学ぶ必要性を痛感いたしました。

ランチパーティにおいては，参加者による武道やマジックの披露があり，参加者の隠れた一面が垣間見える良い機会となりました。私は，サプライズで誕生日をお祝いしていただき，一生涯忘れることのないパーティとなりました。

その他の課外活動についても，研修生一同満足のいくものであり，準備いただいた関係者の皆様に改めて感謝申し上げる次第です。

### 3 海外参加者との交流について

研修において最も思い出深い点は，海外参加者との交流でした。国籍，言語，職種，宗教とバックグラウンドが異なる参加者同士でしたが，気さくな方が多く，研修当初から相互に打ち解けることができました。私は，課外時間に海外参加者を都内に案内することが多かったのですが，その際，お互いの家族，仕事の内容，文化等について深く話し合うことができ，早期に相互の信頼関係を育むことができました。買出しに行ったスーパーで日本食について質問攻めにあったほか，理容店で通訳に苦労したことを始め，そのすべてが良い思い出となっています。特に外出先において食事とともにしながら楽しい時間を過ごしたことは一生の思い出となりました。また，研修が長期にわたるため，ホームシック気味となる参加者もいまし

たが、その際は必ず周囲の参加者が寄り添ってフォローに努めるなど研修生の心の温かみに胸が熱くなる思いでした。

研修が終了した現在でも、SNS等を通じて距離、時差を超えて毎日のように参加者同士が連絡を取り合っています。今後、業務を進める上でこうした他国参加者とのネットワークは必ず有益であると思います。このように国際的な人脈が構築できたことに感謝する次第です。

#### 4 おわりに

このような素晴らしい研修をご提供いただいた、UNAFEI所長を始め、研修所教官、スタッフの方々、JICA職員、アジア刑政財団の皆様に深く感謝申し上げます。

最後になりますが、国連アジア極東犯罪防止研修所には、私が参加した高官セミナー以外にも日本人研修生が参加可能なコースが用意されております。国際的な視野を広げたい方や国際的なネットワークを構築したい方は、積極的に参加されることをお勧めいたします。

ありがとうございました。